

●しょうがい者雇用推移(鳥取工場)

※()内は重度しょうがい者数

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
内部	1(一)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	2(1)
聴覚	2(1)	3(2)	4(3)	4(3)	4(3)	5(3)	5(4)
視覚	1(一)	—	—	—	—	—	—
肢体	4(一)	4(一)	4(一)	4(一)	4(一)	4(一)	4(一)
知的	—	—	—	—	—	1(一)	1(一)
合計	8	10	11	11	11	13	12

●あいサポーター研修開催

- ・新入社員[4月]
- ・しょうがい者職場定着推進チーム
[9月(しょうがい者雇用支援月間)]
- ・一般社員(一部分の内容)
[9月(しょうがい者雇用支援月間)]
- ・一般社員(一部分の内容)
[12月]

あいサポート運動の

取り組み内容

- しょうがい者雇用についての啓発活動
- 職場における作業意欲の把握と援助、激励
- 個別相談による問題点の把握と解決
- 職場配置など職場内容、作業環境の見直し
- しょうがい者職場定着推進チーム会議(2カ月に1回)

「障害」は(障:へだて)と(害:さまたげ)という漢字でできています。当社はどちらの漢字も使わず、ひらがなの「しょうがい」を推奨しています。

活動を行って

苦労したこと、工夫したこと

- 聴覚しょうがい ・コミュニケーションが円滑に行われるようホワイトボードを貸与
・必要な場合は手話通訳者を依頼
- 内部しょうがい ・透析が必要な社員には2時間単位の有給取得を許可
- 身体しょうがい ・洋式トイレの設置
- 精神しょうがい ・法改正に向けて採用できるよう検討中

今後の展望、目標

私たちダイヤモンド電機株式会社の社員が大切にしている社是、「健康に努めよう・信頼に応えよう・明日に向かって前進しよう」は、人生と仕事を支えるフィロソフィである。明日に向かって前向きに進んでいけるように、また、あらゆる事業活動を通じて社員や家族とともに喜びを分かち合い、地域の皆さんと共に歩んでいきたい。そして、社是の真ん中にある「信頼」される企業となるべく努めていきたい。

代表者のコメント

代表取締役社長 池永重彦



情報の展開や円滑なコミュニケーションを目標に、しょうがい者にとっても他の社員にとっても「働きやすい職場作り」を目指したい。
キーワードは「思いやりのある豊かな社会」であり、社員全員が同じ価値観を共有していきたい。

●問い合わせ・連絡先

TEL0857-53-1121
FAX0857-53-1104

豆腐作り通して福祉作業所と連携事業

鳥取市

(有)とうふ工房 雨滝



▲リヤカーで豆腐を販売するまめいちのスタッフ。固定客も増え、昔ながらのスタイルは`街の風物詩、として定着しつつある

<概要>

所在地／鳥取市国府町雨滝510
代表者／代表取締役 山野松美
事業内容／豆腐製品の製造販売
職員数／6人

あいサポート企業になったきっかけ

2007年に精神障がい者を雇用了のを機にメンタルヘルスの勉強をする中、地域の小規模福祉作業所で働く障がい者の賃金が、最低賃金の10分の1にも満たない現状を知った。豆腐の製造販売事業を通して作業所の賃金アップに貢献したいと08年、「まめいち豆一さく作事業」をスタート。10年には県のあいサポート運動第1期認定企業となり、障がいにより企業に雇用されることが困難な人たちに対し、職業能力の開発・習得と働く機会を提供し、将来の職業自立と社会活動の活性化を目指している。

実践事例

まめいち (鳥取市末広温泉町)



▲「豆一作事業」により開業したまめいち

2011年12月、就労支援センター和貴の郷と連携して立ち上げた、とうふ工房雨滝の商品を扱う店。店内での食事や豆腐の販売に加え、リヤカーに商品を積んで市街地を回る新しい試みも取り入れる。障がい者が新しい仕事場を確保できるよう、和貴の郷に通う障がい者とサポートする職員だけで運営できるよう指導。12年6月にオープンし、現在は同店が仕入れた豆乳を使った豆腐料理を提供している。

あいサポート運動の

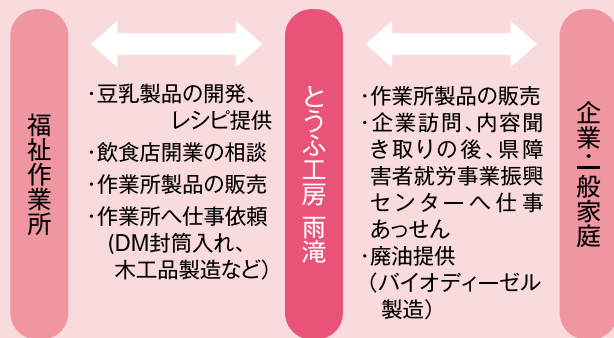
取り組み内容

豆一作事業…豆一作とは「豆腐と一緒に作りませんか」の意味。福祉作業所にとつふ工房雨滝が製造した豆乳を原材料として納め、製造技術や経営指導、商品開発を支援する。作業所で作ったクッキーやコーヒーカップなどの製品は工房で買い取り、店舗で販売する。

<連携している福祉作業所>

ふたば作業所(鳥取市雲山)、和貴の郷(鳥取市河原町)、大平園(湯梨浜町長和田)

できたて豆腐の販売



▲とつふ工房雨滝内で販売している福祉作業所の製品

今後の展望、目標

おいしい豆乳さえあれば、おいしい豆腐は作れる。大豆から豆乳を作る一番難しい行程はカットしているので、まずは一緒に豆腐を作ることから始めてほしい。最終目標は自社の豆乳を使ったオリジナルの豆腐を作ること!

活動を行って

苦労したこと、工夫したこと

生ものを扱う仕事なので、「(やりたいが)福祉作業所の利用者に合わないのでは」と言われることが多い。対面が苦手な人は作ることに特化し、元気な人は販売に従事できる。事業概要の説明では、作業所の実情に合った提案をするよう心がけている。

代表者のコメント

代表取締役 山野松美



福祉作業所で働く障がい者の実態を一つでも多くの企業に知ってもらい、作業所との連携事業を広めたい。そのことが多様な障がいがあることやあいサポート運動の普及、全ての人が共に生きる地域社会の実現につながればうれしい。

●問い合わせ・連絡先

TEL0857-58-0770
FAX0857-58-0778

誰もが利用できる優しい施設目指す

鳥取市

公益財団法人 鳥取県体育協会



▲聴覚障がい者への理解とコミュニケーションの向上を図るため職員を対象にした独自の手話講習会を開いている

<概要>

名称／公益財団法人 鳥取県体育協会

所在地／鳥取市布勢146番地の1

代表者／会長 油野利博

目的／県内スポーツの競技力向上、生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進、文化活動・地域産業の振興に資する事業を通して県民スポーツに対する意識の高揚を図るとともに、健康で文化的な県民生活の向上と地域産業の発展に寄与する

職員数／95人(事務局および県内6施設) (2013年11月1日現在)

▼車椅子はロビーに常備。タイヤを拭き、そのまま館内に入れるよう誘導する



あいサポート団体になったきっかけ

障がいのある人もない人も暮らしやすい社会を目指すあいサポート運動の趣旨に基づき、県内6施設の管理運営者として、誰もが利用しやすい、優しい施設が必要と考えた。あいサポートバッジを付けることで取り組みの認知度、職員の意識が高まり、利用者の拡大につながらばうれしい。